

マントル物質からマントルプロセスを読むー2002年日本開催第4回国際レルゾライト会議に向けて

From mantle material to mantle processes-the fourth International Workshop, 2002, Samani, Japan

小畑 正明[1], 荒井 章司[2], 新井田 清信[3], 小澤 一仁[4], 高澤 栄一[5], 高橋 奈津子[6]

Masaaki Obata[1], Shoji Arai[2], Kiyooki Niida[3], Kazuhito Ozawa[4], Eiichi Takazawa[5], Natsuko Takahashi[6]

[1] 京大・理・地球惑星, [2] 金沢大・理・地球, [3] 北大・理・地球惑星, [4] 東大・理系・地惑, [5] 新潟大・理・地質, [6] 千葉大・理・地球

[1] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ, [2] Dept. Earth Sci., Kanazawa Univ., [3] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ, [4] Univ. Tokyo, EPS, [5] Geology Dept., Niigata Univ., [6] Dep. Earth Sci., Chiba Univ.

マントル物質とマントルプロセスについて広い専門分野にわたって集中的に討論する国際研究集会 International Workshop on Orogenic Lherzolite and Mantle Processes (略称：国際レルゾライト会議)の第4回が2002年北海道の様似町で開催される。

準備委員会は会議のメインテーマを次のように設定した：

- (1) マントル起源のかんらん岩に見られる不均質構造，層構造のその起源，
- (2) 部分融解とメルトの分離，集積のメカニズム及びマグマ輸送中の組成改変，
- (3) 変形微細構造とマントルの流動のダイナミクス，
- (4) リソスフェアのリサイクリングとマントルの地球化学的進化。

マントル物質とマントルプロセスについて広い専門分野にわたって集中的に討論する国際的な研究集会 International Workshop on Orogenic Lherzolite and Mantle Processes (国内略称：国際レルゾライト会議)の第4回が2002年8月26日から9月3日にかけて北海道の様似町で開催される。ここでマントル物質とは、造山帯に産するかんらん岩，オフィオライトのかんらん岩テクトナイト，玄武岩ないしキンパーライトに捕獲されたかんらん岩，エクロジャイトゼノリスを含む。近年のマントル学は、世界の様々なテクトニックセッティングにおけるマントル物質の詳細な観察・記載的研究と超高压実験データの蓄積および地震波トモグラフィーによるマントルの三次元構造と流動パターンの視覚化に触発されて、新展開の局面にあるというよう。その研究の流れの中で、これまでの一連の本会議は天然の物質の観察事実をベースにして、マントルで起こっているさまざまな物理・化学的プロセスを論じるというスタンスで世界の研究をリードしてきたといえる。

国内準備委員会ではこれまでの会議の実績と、世界の研究動向をふまえて、第4回の会議のメインテーマを次のように設定した：

- (1) マントル起源のかんらん岩および関連する岩石に見られる様々なスケールの不均質構造，層構造のキャラクタリゼーションとその起源，
- (2) かんらん岩の部分融解とメルトの分離，集積 (segregation) のメカニズム及びマントルにおけるマグマ上昇中の (母岩との反応による) 組成改変，
- (3) かんらん岩の変形微細構造とマントルの流動のダイナミクスの関係，
- (4) リソスフェアのリサイクリングとマントルの地球化学的進化。

本セッションのイントロダクションとしてこれらのテーマのより具体的な内容をいくつかの研究例を引用して紹介し、本学会の趣旨をよりよく理解していただくとともに、2002年の会議には狭い意味の岩石学のみならず (変成岩、火成岩、火山学)、地球化学、構造地質・岩石学、地球物理学、テクトニクス等、広い専門分野からの参加登録を募る。会議のファーストサーキュラーは Web 上で公開中である (<http://earth.s.kanazawau.ac.jp/LherzoliteWorkshop2002/>)